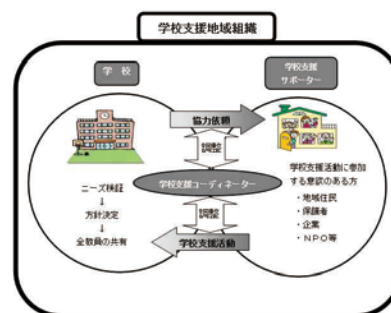


◆事業方針（計画等における位置づけ）

学校、家庭、地域が一体となって子供を支える体制を整えることを目的としており、第2期福生市生涯学習推進計画（修正後期）にて、新たに導入されるコミュニティ・スクールと学校支援地域組織との連携を強化することを定めている。

◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等含む）

市内全小・中学校に「学校支援地域組織」を設置している。学校はニーズを検証し、方針を決定した後、全教員に情報共有を行い、学校支援コーディネーターに依頼する。学校支援コーディネーターは学校から依頼を受けたら、学校支援活動に参加する意欲のある地域住民や保護者、企業等の学校支援サポーターに協力依頼を行い、日程等を調整する。調整後、学校支援サポーターは学校支援活動に参加するという流れで行っている。



◆広報活動（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

学校支援地域組織ハンドブックをHP上に掲載し、各学校にも配布している。成人式には学生ボランティアを募集する旨のチラシを配布し、呼びかけを行っている。

◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

月に一度、「学校支援コーディネーターミーティング」を開催し、コーディネーター間の情報交換を行っている。

また、学校長や教員、地域の方が参加するコミュニティ・スクール準備委員会に参加し、学校支援地域組織やコーディネーターの活動について説明を行っている。

◆成果

平成29年度学校支援コーディネーターは年間延べ1237日活動をしており、サポーターの活動人数も前年度の1883人から2332人と増えている。

小学校では、茶道体験やしめ縄飾りづくりといった伝統文化体験学習や街探検、持久走大会の見守り、ミシンボランティアや校外学習の引率依頼等を行った。中学校では、総合的な学習の時間の講師依頼や落ち葉掃きや花壇の手入れといった環境整備活動、学校行事や祭禮時の見守り等を実施した。

また、現在市内5校の小学校がコミュニティ・スクールの指定を受けており、学校支援コーディネーターも学校運営協議会委員として、会議に参加している。来年度新たに3校の指定を目指し、準備委員会から携わっている。

◆課題・展望

市内に大学がないため、児童・生徒と年齢の近い学生サポーターの確保が困難な状態である。また、ボランティアが同じ方や団体に偏りがちになってしまう。